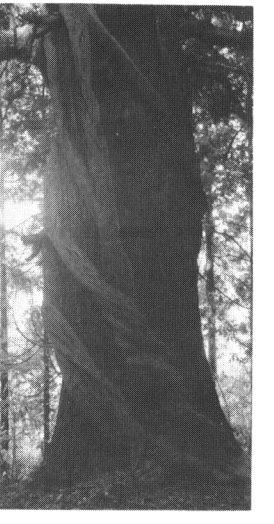
なり亡くなったので、二代目の藤を切る人は今後おそらくないだろうといわれる。

しかし、晩春の藤花は大杉より一面に垂れ下り、みごとである。

（話者　石井　栄）

蛇明神と大藤



杉の堂の枕返し

《矢田野》

昭和三年、私が長寧寺住持として、入寺したある日のことであった。

寺総代だった鈴木源藏氏の話によると、矢田野に杉の堂という大日如来を祀ったお堂があった。近隣では、殊のほか信者が多く、年に幾度かのおこもりの日があって、当日になると、夕闇せまる頃から善男善女が三々五々とお詣りに集まる。一晩中、世間話しに花を添え、また踊りつかれて寝る時は、せまいお堂のこともあって、仏前の方へ足を伸ばして、仮寝するものもあった。

翌朝、目が覚めてみると、頭が仏前の方に替えされている。こんなことがおこもりのたびにあるので、いよいよ不思議さがつのるばかり。あるとき、だれ言うとなく、大日如来が枕返しをされるのだという噂さがひろがり、ますます信仰心を起こしたと古くから伝えられている。

今でもお堂のあった所を、お堂の名にちなんで、杉の堂という呼名で残っている。

（話者　本田栄三）